

教科 科目	国語 国語 2	学 年	2 年	単 位	6 単位	担 当	恒住 典子 松本 梓乃 吉本 美佐枝
----------	------------	--------	-----	--------	------	--------	--------------------------

【科目の概要】

国語としての日本語を正しく身に付け、理解し、その運用能力を高めることを目標としています。具体的には、話すこと・聞くこと、書くこと、読むことに関心を持ち、意欲的に取り組み、自分自身で考え、論述・発言できる力を身につけられるように学習します。

【育成をめざす学力】

- ①自学（予習・復習など）できる力
- ②漢字・慣用句・古語・文法事項・古典常識・漢文句法などに関する基礎的な力
- ③多様なテキスト（説明文・物語文・解説文・韻文・思想・史伝など）を読解する力
- ④テキストに書かれていることを自分の知識や考え方、経験と結びつけて表現する力
- ⑤出題形式に応じて解答できる力

【評価基準・評価項目】

- ・授業やテストに向けて予習・復習ができる。
- ・漢字・語句・文法を習得し、自分の考えを表現できる。
- ・筆者の主張や登場人物の心情を読み取ることができる。
- ・感想文や意見文を書き、自分の考えを表現することができる。
- ・出題形式に応じて解答できる。

【年間指導単元・内容と学習活動】

4 月	詩「名づけられた葉」 小説「小さな手袋」問題演習
5 月	説明文「人間は他の星に住むことができるのか」 問題演習
6 月	短歌「短歌の世界」 読書「見えないチカラとキセキ」 問題演習
7 月	評論「壁に残された伝言」 文法「用言の活用」 問題演習
8 月	記述「読書感想文を書こう」 問題演習
9 月	古文「枕草子・徒然草」 問題演習
10 月	漢文「漢詩の世界」 問題演習 小説「走れメロス」
11 月	古文「平家物語」説明文「動物園でできること」 問題演習
12 月	詩「大阿蘇」 問題演習 文法「助詞・助動詞」 問題演習
1 月	談話「達人のことば」 問題演習
2 月	小説「ポテト・スープが大好きな猫」 問題演習
3 月	「書写」「口語文法のまとめ」 問題演習

教科 科目	社会2（地理的分野）	学 年	2年	単 位	2単位	担 当	瀧澤 優子
【科目の概要】 古くから人間は自然を活用し、あるときは自然を克服して生活をしてきました。自然条件は地域によって異なります。人間はこうした異なる自然に向かう中でさまざまな生活を生み出してきたのです。地理はさまざまな地域の自然条件を理解し、その自然と向き合ってきた人間の暮らしを学ぶ科目です。そして、自然と向き合う中で人間が作り出したものから、成果と課題を考える科目です。2学年では、このうち、日本の諸地域をテーマとして取り扱いながら地理を学んでいきます。							
【育成をめざす学力】 <ul style="list-style-type: none"> ・世界と日本の地域性と地域構造を理解するための基本用語を習得する力 ・基本用語間の関係を把握しながら、学習内容を整理する力 ・基本用語を具体的に使いながら、学習内容を説明する力 ・資料（地図、表、グラフなど）を読み取る力 ・学習内容を地域理解や社会認識につなげる力 ・学習内容から得た地域観や社会観を評価する力 							
【評価基準・評価項目】 <ul style="list-style-type: none"> ・学習した基本用語を正確に暗記し、表記できる（社A①） ・基本用語間の関係を図式化し、単元の学習内容について整理できる（社A②） ・基本用語を使って、単元の学習内容について説明できる（社A③） ・単元の学習内容を通じて、各地域の「地域理解」「社会認識」の特殊性・普遍性を判断できる（社B①②） ・各地域の「地域理解」「社会認識」について自分の価値観に照らして評価できる（社B③） ・社会問題から解決課題を発見し、学習内容を活用しながら解決策を提示できる（社C①～⑤） ・学習過程において地図、写真、グラフ、文章等の資料を読み取ることができる（社A④） ・学習過程において必要な情報を収集し、地図、写真、グラフ、文章等の資料として提示できる（社B④、C①～⑤） ・学習成果を通じて、学習内容に関する習得、理解、活用状況を検証し、改善できる（社A⑤、B⑤、C⑥） ・学習過程を通じて、地理学習の意義を理解し、興味・関心を喚起できる（社C⑦） 							
【年間指導単元・内容と学習活動】							
4月	}	日本のさまざまな地域					
5月		日本のすがた・世界から見た日本のすがた					
6月		世界から見た日本の資源・エネルギーと産業					
7月							
8月							
9月	}	世界と日本の結びつき					
10月		日本の諸地域					
11月		九州・中国・四国・近畿地方・中部地方					
12月							
1月	}	関東・北海道地方					
2月		日本をながめて					
3月							

教科 科目	社会 2 (歴史的分野)	学 年	2 年	単 位	2 単位	担 当	瀧澤 優子
【科目の概要】 歴史学習は、「現在」がすべて歴史の積み重ねであること、また激しく動く「現在」はどのような原因や過程があってそうなったのかを探っていくということです。2年生の歴史的分野では、近世から近代、現代の歴史を取り扱い、日本の歴史の大きな流れや背景、また世界とのつながりを、各時代の特色を踏まえて理解していきます。私たちは国際社会の一員として存在しているのです。その意義を確かめるために、人類が創造してきた歩みを、日本の歴史と世界の歴史を関連づけながら、共に学んでいきます。							
【育成を目指す学力】 <ul style="list-style-type: none"> ・近世史後半からの歴史を理解するための基本用語を理解する力 ・基本用語間の関係を把握しながら、学習内容を整理する力 ・基本用語を具体例として使いながら、学習内容を説明する力 ・資料（地図、図版、グラフ、文書等）を読み取る力 ・学習内容を人間理解や社会認識につなげる力 ・学習内容から得た人間観や社会観を評価する力 							
【評価基準・評価項目】 <ul style="list-style-type: none"> ・学習した基本用語を正確に暗記し、表記できる（社A①） ・基本用語間の関係を図式化し、単元の学習内容について整理できる（社A②） ・基本用語を使って、単元の学習内容について説明できる（社A③） ・単元の学習内容を通じて、各地域・時代の「人間理解」「社会認識」の特殊性・普遍性を判断できる（社B①②） ・各地域・時代の「人間理解」「社会認識」について自分の価値観に照らして評価できる（社B③） ・社会問題から解決課題を発見し、学習内容を活用しながら解決策を提示できる（社C①～⑤） ・学習過程において図版、地図、グラフ、文章等の資料を読み取ることができる（社A④） ・学習過程において必要な情報を収集し、図版、地図、グラフ、文章等の資料として提示できる（社B④、C①～⑤） ・学習成果を通じて、学習内容に関する習得、理解、活用状況を検証し、改善できる（社A⑤、B⑤、C⑥） ・学習過程を通じて、世界史学習の意義を理解し、興味・関心を喚起できる（社C⑦） 							
【年間指導単元・内容と学習活動】							
4 月 5 月 6 月 7 月 8 月	第 4 章 近世の日本 江戸幕府の成立と鎖国 産業の発達と幕府政治の動き						
9 月 10 月 11 月 12 月	第 5 章 開国と近代日本の歩み 欧米の進出と日本の開国 明治維新 日清・日露戦争と近代産業						
1 月 2 月 3 月	第 6 章 二度の世界大戦と日本 第一次世界大戦と日本 世界恐慌と日本の中国侵略 第二次世界大戦と日本						

教科 科目	数学2	学 年	2年	単 位	5単位	担 当	藤原 豊	
【教科・科目の概要】 1年次に学習した文字式、方程式を発展させ、いくつかの文字を含む式の四則計算ができるようにすることや式を活用する能力をつける。連立方程式では、2種類の文字を使って立式することの利点や2つの数量関係を方程式で表すことにより、問題解決が容易になることを学ぶ。1次関数の学習では具体的な事象の変化や対応の考察を通して関数についての理解を深める。図形の学習では操作的な活動によって明らかになった性質を筋道の立った考え方で演繹的に確かめる。確率では偶然の事象を観察する中で規則性を見つけ、偶然に支配されることがらの起こりやすさを数値化する。								
【育成をめざす学力】 ① 学習の基盤となる基礎的・基本的な知識・技能を習得し、活用できる力 (F、G) ② いろいろな問題の解決に向けて、根拠を明らかにし、筋道を立て、体系的に考えることのできる力 (C、D) ③ いろいろな問題の解決に向けて、言葉や数、式、図、表、グラフなどの関連を理解し、活用できる力 (A、B) ④ 学習活動を通して、自分の考えを説明、表現できる力 (E) ⑤ 数学を学ぶ意欲を高め数学的な見方や考え方のよさを実感し、それらを通して考えたり判断したりできる力 (D)								
【評価基準・評価項目】 ① 事象の中に数量関係を見出し、それを文字式に表し、活用することができる。 ② 連立2元1次方程式を理解し、数量関係を図、表、絵などに表し、それを用いて問題解決ができる。 ③ 具体的な事象の中から二つの数量を取り出し、それらの変化や対応から1次関数を理解し、表現・考察できる。 ④ 具体的な事象の観察や実験を通して確率について理解できる。 ⑤ 基本的な平面図形の性質を見出し、それを確かめ、論理的に考察することができる。								
【年間指導単元・内容と学習活動】								
4月	第1章：式の計算 (復習)						実力考査	
5月	第2章：連立方程式 1節 連立方程式 ①連立方程式とその解 ②解き方(加減法、代入法) ③いろいろな連立方程式の解き方 2節 連立方程式の利用①連立方程式の利用(代金、個数、整数、速さ、割合など)						1学期中間考査	
	6月	第3章：1次関数 1節 1次関数 ①1次関数 ②値の変化 ③1次関数のグラフ ④1次関数の式の求め方 2節 1次関数と方程式 ①2元1次方程式とグラフ ②連立方程式とグラフ 3節 1次関数の利用 ①1次関数の利用(身の回りのこと、動点)						1学期期末考査
7月		演習 1次関数と図形						夏期テキスト
8月		第4章：図形の性質と合同						実力考査
9月	1節 平行線と角 ①直線と角 ②三角形の角 ③多角形の角 2節 三角形の合同 ①合同な図形 ②三角形の合同条件							
	10月	3節 証明のしくみ ①証明のしくみ(演習) 第5章：三角形と四角形						2学期中間考査
11月		1節 三角形 ①二等辺三角形の性質 ②二等辺三角形になる条件 ③直角三角形の合同条件 2節 四角形 ①平行四辺形の性質 ②平行四辺形になる条件 ③特別な四角形 ④面積が等しい三角形 発展学習 数と規則性、図形と規則性						ベネッセ模試
	12月	第6章：確率						2学期期末考査
1月	1節 確率 ①事からの起こりやすさ ②確率 ③いろいろな確率						冬期テキスト 実力考査	
2月	3年数学							
3月	1章 式の計算 文字式の展開, 因数分解, 素数, 素因数分解						学年末考査	
	春期テキスト							

教科 科目	理科2	学 年	2年	単 位	5単位	担 当	田林 牧子
<p>【科目の概要】</p> <p>「化学変化と原子・分子」：化学変化についての観察，実験を通して，化合，分解などにおける物質の変化やその量的な関係について理解するとともに，これらの事象を原子，分子のモデルと関連づけてみる見方や考え方を養います。</p> <p>「動物の生活と生物の進化」：身近な動物についての観察，実験を通して，動物の体のつくりとはたらきを理解するとともに，動物の種類やその生活についての認識を深めます。現在生きている生物は，過去の生物が変化して生じてきたものであることの認識を深めます。</p> <p>「電流」：電流についての観察，実験を通して，電流と電圧との関係および電流のはたらきについて理解し，日常生活に関連づけて電流と磁界についての初歩的な見方や考え方を養います。</p> <p>「気象のしくみと天気の変化」：身近な気象の観察，観測を通して，気象要素と天気の変化の関係を見出し，気象現象についてそれが起こるしくみと規則性についての認識を深めます。</p> <p>「力のはたらき」身近な事象を通して，力のつり合いのための条件を見いだします。力の合成や分解を作図し，合力や分力を求めます。</p>							
<p>【育成をめざす学力】</p> <p>興味や関心をもって身近な現象や先端技術をとらえようとする力。自然の事物や現象の知識を身につけ，自然のしくみや法則等を理解することのできる力。学習の方法やその工夫を考え基本事項を正確に理解し，定着させる力。観察・実験における技能を習得し，その結果を科学的な考察を交え，文章や図・グラフ等を用いて正確に表現する力。知識と与えられた条件から予想する力根気強く，速く，正確に計算する力。単位の意味を理解し，正しく活用することができる力。文字式を活用することができる力。資料（文章・グラフ・表など）を正確に読解する力。分析したり考察したりする力。複数の単元で学習した内容を組み合わせて活用する力。</p>							
<p>【評価基準・評価項目】</p> <p>身近な事物・現象の規則性に興味・関心をもっている。身近な事物・現象に関する知識を身につけ，日常生活との関連を見いだすことができる。モデルや図などを活用して，基本的な概念の理解を深めることができる。観察・実験に必要な器具を操作することができる。観察・実験の結果をスケッチや文章で的確に記録することができる。実験条件の統一や対照実験など，自然の事物・現象を科学的に探究する基本的な方法を身につけている。定量的な測定をすることができる。安全に十分配慮して実験をおこなうことができる。観察・実験の過程，結果および考察を報告書にまとめることができる。身近な事物を分類して共通性や多様性を見出すことができる。観察・実験の結果を比較し，規則性を見出すことができる。数学的な手法や表記法を用いて諸現象を論理的に考えることができる。図や表を，文章での記述と対比して読み取ることができる。モデル化して現象を説明したり，グラフ化したものから規則性を読み取ったりすることができる。</p>							
<p>【年間指導単元・内容と学習活動】</p>							
4月	物質の成り立ち						
5月	いろいろな化学変化	化学変化と物質の質量					
6月	化学変化と物質の質量	化学変化と熱の出入り					
7月	細胞のつくりとはたらき	生命を維持するはたらき					
8月	生命を維持するはたらき						
9月	生命を維持するはたらき	行動のしくみ	動物のなかま				
10月	生物の進化	電流と回路					
11月	電流と回路	静電気と電子					
12月	電流と磁界						
1月	気象観測	大気中の水蒸気の変化					
2月	前線の通過と天気の変化	日本の気象					
3月	力のはたらき（これより3年次の内容）						

教科 科目	音楽 2	学 年	2 年	単 位	1 単位	担 当	佐野智江
【科目の概要】 2年生から、音楽は週1時間の授業になります。1年生で学習した内容に加え、拍子の種類、曲の形式等を学びます。へ音譜表の読譜練習も行います。また、外国の民謡を原語で歌唱する授業も取り入れます。1年生で学んだ音楽の基礎知識をふまえ、一歩すすんだ学習活動を展開します。							
【育成をめざす学力】 <ul style="list-style-type: none"> ・ト音譜表、へ音譜表を読む力。 ・外国の民謡を原語で歌唱し、その雰囲気を楽しむ姿勢。 ・曲の構成、形式、拍子を理解し、それを表現や鑑賞に生かすことができる力。 ・パート練習や意見交換を通して、自主的な音楽活動ができる力。 							
【評価基準・評価項目】 <ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に授業に参加することができる。 ・音楽的な事柄を理解し、それを表現や鑑賞の場で生かすことができる。 ・歌詞の内容や曲想について理解を深め、その曲にふさわしい表現方法を考えることができる。 							
【年間指導単元・内容と学習活動】							
4 月	讃美歌コンクールに向けて						
5 月	讃美歌コンクールに向けて						
6 月	曲の特徴を生かした表現をしよう 「サンタ ルチア」 実技テスト（歌唱）						
7 月	曲の構成や曲想の変化を感じ取って表現しよう「夢の世界を」 1 学期のまとめ						
8 月	言葉と旋律の関係を理解しよう 「夏の思い出」						
9 月	速度や強弱の変化を生かした表現をしよう 「花の季節」						
10 月	フーガのおもしろさを味わいながら鑑賞しよう 「フーガ ト短調」						
11 月	曲のしぐみに注目して名曲を鑑賞しよう 「交響曲第 5 番 ハ短調」 アルトリコーダーの演奏を楽しもう 「星の世界」 クリスマス礼拝準備（「ハレルヤコーラス練習」）						
12 月	日本の伝統音楽に親しもう 「勸進帳」 2 学期のまとめ クリスマス礼拝準備（「ハレルヤコーラス練習」）						
1 月	実技テスト（アルトリコーダー） オペラに親しもう 「アイダ」						
2 月	オペラに親しもう 「アイダ」 学年末考査						
3 月	1 年間のまとめ						

教科 科目	美術 2	学 年	2 年	単 位	1 単位	担 当	竹富 栄治
【科目の概要】 日常の中の美を発見し、それを応用して作品をつくる方法を学びます。また、自分の表現したい内容に合わせて色や形を選ぶ経験を積みます。さらに日本の美術と西洋の美術の変遷と影響について学び作品の良さを味わいます。							
【育成をめざす学力】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 自然物・人工物に目を向けその価値を見出し、その背景を想像していこうとする力 ・ 目標を設定し実現のために計画的に行動する力 ・ 民族・地域・時代による価値の違いに興味関心を持ち理解する力 ・ 道具・技法等を目的に応じて使いこなす力 ・ 表現することに価値を置き有効な表現手段を探り、表現する力 							
【評価基準・評価項目】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の思いや考えを、意欲的に表現・発表することができる ・ 作品を時代背景、作者の生い立ちなどの観点から理解することができる ・ 自然を愛好し、その良さや美しさを発見することができる ・ 美術の変遷を影響と発展の観点から理解することができる ・ 自ら構想した物を形や色を工夫して視覚化することができる 							
【年間指導単元・内容と学習活動】							
4 月	自然物をモチーフに構成する						
5 月	観察と発見						
6 月	線と面の構成						
7 月	色彩による構成						
8 月	完成・鑑賞						
9 月	日本の美術・西洋の美術						
10 月	生活に生きる美意識（伝統工芸・和菓子など）						
11 月	仏像・障壁画						
	水墨画						
12 月	江戸時代の絵画						
1 月	浮世絵						
2 月	日本と西洋の交流						
3 月	印象派						

教科 科目	保健体育 体育	学 年	2年	単 位	2単位	担 当	猪 寛子
【科目の概要】 心と体を一体としてとらえ、健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、自己の能力に適した課題を持って取り組む姿勢を養う。また、チームにおける自己の役割を自覚して、その責任を果たし、互いに協力して練習やゲームができるようにする。							
【育成をめざす学力】 ◇互いに協力して自己の役割を自覚し、チームの課題や自己の能力に適した解決を目指し、勝敗に対して、公正な態度が取れるようにする。							
【評価基準・評価項目】 ・自己の能力に応じて、運動の技術を高め、競技したり、記録を高めたりすることができる。 ・社会におけるスポーツの意義の必要性や運動の学び方について理解できる。							
【年間指導単元・内容と学習活動】							
4月	1 体育実技の受け方のオリエンテーション 2 集団行動						
5月	3 陸上競技 ① 短距離走・リレー						
6月	4 剣道 ① オリエンテーション (剣道の歴史・用具の説明・マナーと安全) ② 礼法の復習 ③ 構え方と素振り ④ 面・小手・胴の打突 ⑤評価						
7月	評価						
8月	5 体力測定のオリエンテーション 体力測定 (握力・上体そらし・長座体前屈・反復横とび・1, 000m持久力・50m走・立ち幅跳び・ボール投げ)						
9月	6 バドミントンについて説明バドミントン ① クリアー						
10月	② サービス・サービスレシーブ						
11月	③ スマッシュ ④評価 ⑤ゲーム						
12月	7 体育理論						
1、2月	8 サッカー ①パス ②ドリブル ③シュート ④ 評価						
3月	ゲーム						

教科 科目	保健体育 保 健	学 年	2 年	単 位	1 単位	担 当	浦元 久美子
【科目の概要】							
<p>体育理論の学習を通して、自分の能力に合った運動の課題解決を見つけ、仲間とともに教え合い、助け合うことによって、ほんとうの運動の楽しさや喜びを体験できることを教える。</p> <p>健康に関する体の働き、環境、社会のしくみなどを考えることによって、健康や安全についての管理能力や探究心を養う。</p>							
【育成をめざす学力】							
<p>○運動をみずから進んで計画し、実践していく能力。</p> <p>○心身の健康の保持増進にかかわる実践力。</p> <p>○健康・安全管理能力。</p>							
【評価基準・評価項目】							
<ul style="list-style-type: none"> ・健康の大切さや体の発育、発達などの基礎的な事項が理解できる。 ・心の健康に関する課題が理解できる。 							
【年間指導単元・内容と学習活動】							
4 月	1. 保健の受け方についてオリエンテーション 2. 心身の発達と心の健康 体の発育・発達						
5 月	① 呼吸・循環機能の発達 ② 性機能の成熟						
6 月	③ 性とどう向き合うか						
7 月	④ 評価						
8 月	⑤ 人とかかわりと自分らしさ						
9 月	人とかかわりと自分らしさ						
10 月	⑥ 欲求やストレスへの対処						
11 月	⑦ まとめ						
12 月	⑧ 評価						
1 月	3. 健康と環境 ① 環境の変化に体はどう対応するのか						
2 月	② 快適な環境条件						
3 月	③ まとめ・評価						

教科 科目	技術・家庭2	学 年	2年	単 位	2単位	担 当	内田 絵理香
<p>【科目の概要】</p> <p>技術・家庭科では、よりよい生活をしていくために、生活に必要な知識や技術を理解し、実際の生活の中でいろいろな課題を解決する方法を学びます。生活するためには、知っているだけでなく、実際に手や体を動かして体験することが必要です。そのために実習を行い、その過程で生活を工夫し、創造する能力やものをつくる技術を習得します。また、生活の基盤である家庭の役割や、家族や周囲の人々の支え合いの大切さについて学び、周囲の人々との豊かなかかわり方を工夫したり、自分のくらしと環境のかかわりについて考えたりして、実践する力を養います。これらの学習を通して生活の自立と共生のための基礎的な考え方や知識・技術を身につけ、生活を工夫し、創造するのが教科の目的です。</p>							
<p>【育成をめざす学力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報を収集し、活用する力 ・課題に対して様々な角度から考える力 ・自分の考えをまとめる力 ・生活をよりよいものに改善していこうとする意欲や創意工夫する力 ・生活の自立と共生のために必要な力 							
<p>【評価基準・評価項目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木材加工、食生活についての基本的知識・技術を習得できている。 ・説明を聞き、指示された内容を理解して実習を行うことができる。 ・安全に配慮し、グループのメンバーと協力して作業することができる。 ・学習内容に関するスクラップブックを作成し、その内容を要約して発表することができる。 ・必要な情報を収集し、自分の考えをまとめて発表することができる。 							
【年間指導単元・内容と学習活動】							
4月～ 7月	<p>「材料と加工」</p> <p>1 材料と加工法</p> <p>(1) 材料と加工の技術について知ろう (2) 材料の基本的な性質を調べよう</p> <p>(3) 製品を丈夫にする工夫を知ろう</p> <p>2 製作品の設計・製作</p> <p>(1) 生活に役立つ製作品を設計しよう (2) 製作の作業手順を考えて製作しよう</p>						
8月～ 12月	<p>「わたしたちの食生活」</p> <p>1 食生活と栄養</p> <p>(1) 食事の役割を考えよう (2) 栄養素の種類と働きを知ろう</p> <p>2 献立作りと食品の選択</p> <p>(1) 食品に含まれる栄養素を知ろう (2) 何をどのくらい食べればよいか考えよう</p> <p>(3) バランスのとれた食生活を考えよう (4) 食品の選び方を考えよう</p>						
1月～ 3月	<p>3 調理と食文化</p> <p>(1) 日常食の調理をしよう (2) 地域の食文化を知ろう</p>						

教科 科目	英語2	学 年	2年	単 位	6単位	担 当	中川 未央 C. オサリバン
【科目の概要】 英語は今や世界の共通語となっています。英語が使えるようになることで、皆さんの世界が広がっていくことはまちがいありません。英語の学習を通して、世界に目を向け、様々な国の文化や思想の違いについて理解を深めると共に、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、実践的コミュニケーション能力の基礎を養います。6単位のうち、2単位をオーラルコミュニケーションの授業とし、ネイティブ教師と日本人教師が指導するクラスで、英語を聞いて即座に英語で答えることのできる力を養っていきます。4単位は教科書、問題集を活用し、語彙力、文法力をつけながら、英語で話したり、書いたりする活動を行います。							
【育成をめざす学力】 Reading 速くそして正確に英文の内容を読み取る力 Listening 目的をもって展開を予測しながら聴き、内容を把握する力 Speaking / Writing 身近な話題について自ら考え、積極的に英語で表現する力							
【評価基準・評価項目】 Speaking: 英語での簡単な受け答えができる。 自分のことや日本のことを簡単に英語で話すことができる。 Writing: 自分のことや日本のことについて、50語程度の英文で自分の考えや意見を書くことができる。 Reading: 短い英文を読み、理解することができる。 Listening: 簡単なまとまりのある英語を正しく聞き取ることができる。							
【年間指導単元・内容と学習活動】							
4月	オリエンテーション・1年の復習・不規則動詞の過去形・Program 1						
5月	Program 2	過去進行形・未来表現	Immediate Conversation				
6月	Program 3,4	複文・助動詞					
7月	Program 4	助動詞					
8月	Program 5	There is 構文・接続詞					
9月	Program 5, 6	不定詞					
10月	Program 6, 7	動名詞・文型	↓				
11月	Program 7, 8		Skit				
12月	Program 9	比較					
1月	Program 10	比較					
2月	Program 11, 12	受動態	↓				
3月	3年の教科書 Program 1 現在完了						

教科 科目	聖書	学 年	2年	単 位	1単位	担 当	石橋 誠一
【科目の概要】 1年次に「キリスト教入門」として学んだ旧約聖書の理解をさらに深め、聖書の人間理解や神と人間との関係について学ぶことを目指す。一年間で旧約聖書全体を学ぶ。							
【育成をめざす学力】 A. 聖書と教会を理解するための知識を習得し、整理する力。 B. 知識を活用（分類・分析）して聖書や教会を解釈する力。 C. 知識を活用（分類・分析）して自分自身の将来像を展望する力。							
【評価基準・評価項目】 ・キリスト教における旧約聖書の位置付けを理解できる。 ・旧約聖書に書かれている内容と自分の置かれている現実とを関連付けて考えることができる。							
【年間指導単元・内容と学習活動】							
4月	旧約聖書の学びへの導入						
5月	創世記（天地創造、アダムとエバ、大洪水とノアの箱舟、バベルの塔）						
6月	創世記（アブラハム、ヤコブ、ヨセフ）						
7月	出エジプト記（モーセ、出エジプト）						
8月	出エジプト記（葦の海を渡る）						
9月	出エジプト記（シナイ山の契約、十戒）						
10月	出エジプト記（荒れ野の放浪）～ヨシュア記～士師記～サムエル記						
11月	サムエル記～列王記（ダビデ、ソロモン）						
12月	列王記・預言書（王国の分裂、滅亡と預言者）						
1月	預言書・エズラ・ネヘミヤ（捕囚期）、ヨブ記、詩編						
2月	箴言、コヘレトの言葉、雅歌、ルツ記、エステル記、ダニエル書、ヨナ書、哀歌						
3月	まとめ						

教科 科目	インテグレーション2	学 年	2年	単 位	1単位	担 当	2学年教師
【科目の概要】 Integration は“統合”を意味し、異なる教科の担当教師が協働で学年目標に沿った授業計画を作成して行う本校独自の設定教科です。2年次では職場体験学習を行います。将来自分が目指していく職業について、さまざまな視点からの調べ学習を行い、数回の職場体験をきっかけにしながら、「仕事と自分」という大きなテーマについて考えを深めていきます。世界各国の現状にも目を向けながら、女性が働きやすい社会について考える契機とし、視野を広げていこうとする姿勢を養うことを目指します。							
【育成をめざす学力】 <ul style="list-style-type: none"> ・インターネットや文献などから必要な情報を収集し、内容を理解する力 ・調べた内容をまとめ、表現・発表できる力 ・相手の意見や考えを聴き、客観的に判断できる力 ・自分の考えを筋道を立てて表現できる力 ・日本や世界についての理解を深め、視野を広げていこうとする姿勢 							
【評価基準・評価項目】 <ul style="list-style-type: none"> ・必要な情報を収集し、それを整理、理解することができる ・課題解決に向けて、協力して話し合い、考えを深めることができる ・他者の考えを聞き取り、客観的に判断し、評価することができる。 ・必要な情報を的確に伝えるレポートを作成することができる。 ・調べた内容を筋道をたててまとめ、発表することができる。 							
【年間指導単元・内容と学習活動】							
4月	オリエンテーション 職業についてのDVD視聴						
5月 6月	「福祉」に関する講演会 職場体験学習（福祉施設）に向けての事前学習						
7月	職場体験学習① リビングトーキング						
9月	自分が目指している（興味関心のある）職業についての調べ学習・レポート作成						
10月	職場体験学習（税務署）事前学習と準備 職場体験学習②						
11月 12月	プレゼンテーション準備① ★テーマ「仕事と私 ～職場体験や調べ学習で学んだこと～」 リビングトーキング						
1月	プレゼンテーション発表会&相互評価 ★テーマ「仕事と私～職場体験や調べ学習で学んだこと～」						
2月	校内英語スキットコンテスト準備						

3月

校内英語スキットコンテスト・西南イングリッシュデイ（セカンドプログラム）準備